

とーりまかし

vol. 53

2018年9月号

心を動かす、
日本を元気にする
観光・レジャーの
プロデューサー
応援情報誌

実施率改善、費用UP!
そして若年男性に旅行復権の兆し?
『じゃらん宿泊旅行調査2018』より

ミレニアル男子の 「謎」に迫る



「新・ご当地グルメ」から
ご当地“一番”レストランへ まだまだ続く!

青森発 新・ご当地グルメ 「S-1あおもり」成長記

本棚で寝落ち、寝台車で北斗星気分、
交流を求めて…
滞在そのものがエンタテインメント
楽しい! 「コンセプト宿」

他業界から学ぶマーケティング事例
Marketing Crossing
少子化に負けず第1号から完売!
学習雑誌『小学8年生』が目指すもの

価値と感動を生み出す人にインタビュー
マエストロの肖像
エステー株式会社
執行役 エグゼクティブ・クリエイティブディレクター
鹿毛康司

From Local
世界に誇るまち・むらのしごと
静岡県 プラモデル



400年続く城下町で
当時の息遣いを体感できる
篠山城下町ホテル NIPPONIA

ささやまじょうかまちホテル ニッポニア

兵庫県篠山市

「歴史的建築物等に関する旅館業法の特例」適応の地区としてスタート。5つの古民家は、いずれも水回りなど使い勝手が不便なところを除き、できるだけ手をいれずに再生。壁、襖、柱はそのまま。煤も活

かし、昔の人が使っていた風情を大切にしている。夕食は「フレンチの技法を用いた地産地消の篠山料理」を提供。今年3月には「佐原商家町ホテル NIPPONIA」(千葉県香取市佐原)もオープン。

町全体をテーマパークのように
地域を丸ごと1つのホテルと見立てたく
取り組みが町おこしにもつながっていく

旅行の宿泊先として、今まで認知されてこなかったエリアにも宿が増え始めている。個性ある宿が地域と連携すれば、それだけで新たな魅力を放つエリアに変わっていくだろう。これもまた最近増えてきている動きだが、地域と都心、異なる環境の2つの取り組みを紹介する。

客室が点在する古民家ホテル
の成功が、旅館業法の改正に

元々観光地ではなかったところ
で生まれた宿が、地域の流れを変
えていく。兵庫県東部、京都との
県境に位置する篠山市の「篠山城
下町ホテル NIPPONIA」は、ま
さにそんな宿だ。

市内の城下町に残る古民家をリ
ノベーションして客室に。2 km範
囲に5棟12室が点在し、そのうち
の1棟にフロントとレストランを
併設。送迎はあるが、宿泊客は自
然と町を回遊することになる。古
民家を商業施設としても活用し
再生したい、町を丸ごと楽しん
で暮らして地域再生につなげたい
という地元の一般社団法人オトと、
運営会社バリューマネジメントの
思いが1つになり2015年に誕
生した。利活用は市や地元の銀行
などが揃うことで実現するが、同
時に地域の人たちを巻き込み、理
解を得ることも忘れてはならない。

ここは黒大豆や丹波栗の産地と
して知られているが、観光地では
ない町に知らない人たちがやって
くることにネガティブなイメージ
を抱く人は多かった。夕食に出す
フレンチの食材を栽培してほしい
と頼んだり、移住者や店舗も増え
てきて、段々と理解されるよう
になってきた。

そして、このような成功により、
今年6月には旅館業法が改正され
ることになった。客室棟が点在す
る場合、これまでは各棟に1人フ
ロントスタッフを常駐させる必要
があったところを1棟のみでOK
となったのだ。また、この方式の
利点は、状況にあわせて客室数を
増やしていけること。この秋まで
にあと7室ほど増える予定だ。



右上・右下・左上/フロントやレストランが入るONAE(オナエ)棟は元銀行経営者宅。元お茶屋、江戸時代の長屋など客室棟はすべて異なる造りとなっている。左下/夕食一例。黒大豆や栗以外にも、丹波篠山牛や丹波松茸など、周辺は食材の宝庫



DATA 兵庫県篠山市西町25
2015年10月オープン。1泊2食付き1室2名利用時1名2万4840円～